Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-10-14

日本語教科書における副詞の扱いについて

朴, 秀娟

(Citation)
神戸大学留学生教育研究,6:23-47

(Issue Date)
2022-03

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81013410

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013410

KOBE UNIVERSITY

神戸大学
留学生教育研究　6：23～47，2022

〔研究論文〕

日本語教科書における副詞の扱いについて

朴　秀娟

キーワード：副詞、日本語教科書、総合教科書、初級、中級、上級

1．はじめに

副詞の誤用は、初級レベルの学習者だけでなく、上級レベルの学習者においても依然として見られる。しかしながら、日本語教育において、副詞の指導が十分に行われているとは言い難い。日本語教育における副詞の扱いについては、語彙レベルでの導入に留まっていることが多く、他の品詞に比べて、取り立てて指導されることが少ないということが指摘されている（大関1993、小寺2001、朴2019など）。しかし、「少ない」ということを裏返せば、なかには、取り立てて指導される副詞もあるということになる。本研究の目的は、その「取り立てて指導される副詞」に注目し、それらに見られる特徴を示すことである。語彙レベルで導入される副詞が多い中で、特に取り立てて指導される副詞にはどのようなものがあるのだろうか。日本語教育における副詞の扱いの現状を正確に把握するためには、取り立てて指導されることが少ないという点だけでなく、個別に取り上げられる副詞についても明らかにする必要があると思われる。そこで、本研究では、日本語教科書、とりわけ、総合教科書を対象に、それらにおいて個別に取り上げられる副詞にはどのようなものがあるのか、また、それらの副詞にはどのような特徴が見られるのかの二点について明らかにする。これらを明らかにすることで、日本語教育における副詞の指導に見られる傾向の一端を示したい。

以下、まず２節では、日本語教科書で取り上げられている副詞に関する従来の指摘についてまとめ、本研究の意義について述べる。続く３節では、本調査で用いた資料について説明する。そして、４節から６節では、日本語教科書のレベル別に、各々のレベルにおいて取り立てて指導される副詞及びそれらに見られる特徴について述べる。最後の７節は、まとめである。

2．日本語教科書で取り上げられている副詞に関する従来の指摘

日本語教科書で導入されている副詞については、大関（1993）、朴（2019）、松本

（2020）でも調査が行われている。いずれも総合教科書における副詞について考察を行ったものである。

大関（1993）は、初級教科書16冊、中・上級教科書８冊を対象に、それぞれの教科書において扱われている副詞を調べ、それらに見られる特徴について述べている。まず、初級教科書については、16冊すべてにおいて共通して見られた副詞は「たいへん」であったこと、また、13冊以上の初級教科書に共通して扱われている副詞を[(1)]、いわゆる副詞の三分類（情態副詞・程度副詞・陳述副詞）を指標に分けると、程度副詞と陳述副詞として分類される副詞が多かったことを指摘している。陳述副詞の比率が高いことについては、初級で扱われる文型や文法が陳述副詞とともに提示されるケースが多いからではないかとしている。占める割合が最も少なかった情態副詞については、１冊のみで扱われている副詞の中では約７割程度を占めていたとし、それはすなわち、情態副詞の場合、教科書によって扱い方にばらつきがあり、共通度が低いと言うことができるのではないかとしている[(2)]。中・上級教科書については、新聞や小説などの生教材を使ったものが多く、出てくる語彙も、指導項目を意識したものというより、偶然性の高いものであり、初級教科書に比べて、様々な性質を持つ副詞が扱われるようになると述べている[(3)]。そして、中級以降の教科書においても、副詞は、副詞そのものの指導を目的に提示されているというよりも、たまたま掲載されている語彙としての扱いであることが多いと指摘している。

朴（2019）は、大関（1993）での調査結果を参照しつつ、主に、初級教科書において導入される副詞について考察を行っている。初級教科書11種を対象に調査を行い、その結果、多くの教科書において共通して見られる陳述副詞は、大関（1993）の調査から約30年が経った時点でも、その多くが特定の文型とともに導入されるものであったと述べている[(4)]。その一方で、大関（1993）とは異なる結果として、①複数の教科書に共通して取り扱われるようになった情態副詞の種類が増えていること、②扱われている程度副詞は変化しており、教科書間で共通度が高い程度副詞は、「たいへん」ではなく、「すこし、ちょっと、とても」であったことの二点を挙げている。

松本（2020）は、中級教科書において導入されている副詞について考察を行っている。中級教科書11種を対象に調査を行い、大関（1993）、朴（2019）が行った初級教科書の調査結果とも比較をしながら、中級教科書間では、扱われる副詞の共通度が初級の場合よりもはるかに低かったと述べている[(5)]。

以上から、調査時期によって異なる結果も見られるものの、日本語の総合教科書

において扱われている副詞には、教科書のレベルごとに、ある一定の特徴を見出すことが可能であることが分かる。本研究でも、大関（1993）、朴（2019）、松本（2020）と同じく、総合教科書において導入されている副詞を対象とした調査を行う。しかし、本研究は、日本語教科書に出現している副詞全般を対象とするのではなく、語彙リストでの導入に留まらず、指導項目などとして特段取り上げられている副詞に注目するという点において、これまでの研究とは分析の観点が異なる。先に述べた研究は、いずれも、索引などを利用し、教科書において新出語彙として提示されているものの中から副詞として認定できるものをすべて拾い、考察を行っているものである。しかし、教科書を見てみると、実際には、語彙リストでの導入に留まっているものもあれば、副詞そのものが学習項目として取り上げられている場合や（例：なかなか）、学習項目の一部分として取り上げられている場合も見られる（例：まるで～ようだ）。本研究は、後者のような副詞を、前者のような副詞と区別して、「取り立てて指導される副詞」として取り上げ、それらの副詞に見られる特徴について見出だそうとするものである。総合教科書において新出語彙として導入される副詞の中でも、どのようなタイプの副詞が取り立てて指導される傾向にあるのか、またそれらにはどのような共通した特徴が見られるのかについて明らかにしていく。

3．調査資料について

本研究では、初級から上級までの総合教科書を対象に考察を行う。総合教科書を調査対象とした理由は主に次の二つである。

①同レベルの教科書間では、導入される文法項目の種類や範囲が似通っており、取り上げられる副詞についても共通度を測りやすい。
②複数の技能の育成を目的とした教科書で、特定の技能に偏らない考察が可能である。

副詞は修飾語として働くことから、どのような副詞が使用されるかは、被修飾語となる語の語彙的意味や文法的特徴に依存する。なかには、情態副詞を中心に、特定の語としか結びつかない、すなわち、使われる場面や話題が制限される副詞もある。そのような中、総合教科書の場合、導入される文法項目の種類や範囲が共通していることが多く、扱われる副詞についても共通度を見出せると考えた（①）。また、副詞の中には、文体（話し言葉／書き言葉）によって使用傾向が異なる副詞や（例：

すごく／非常に)、使用場面に偏りが見られる副詞が存在する（例：ぜひ)。そのような文体差や使用場面の偏りを可能な限り少ないものにするべく、特定の技能の育成に焦点が当てられた技能別教科書よりは、複数の技能の育成を目的とした教科書である総合教科書を調査対象とした（②)。ただし、総合教科書とされている教科書であっても、①、②が厳密には当てはまらないこともある[6]。本研究では、そのようなばらつきがある中でも見出せる共通度に注目をしたい。

具体的な調査資料となった総合教科書の選定基準は以下のとおりである（以下、「教科書」とは、総合教科書を指す)。まず、初級教科書については、朴（2019）の考察結果を踏まえた考察を行うために、朴(2019)と同じ11種の教科書を採用した[7]。調査対象とした初級教科書を、本文中で言及する際の略語と合わせて表１に示す。

表１．調査資料：初級教科書（11種）

教科書	刊行年	略語
『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE Notes Vol. 1・2・3（第２版)』（凡人社）	1994 ～ 1995	SFJ
『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE Drills Vol. 1・2・3（第２版)』（凡人社）	1994 ～ 1996	
『日本語初歩（改訂版)』（凡人社）	1997	初歩
『初級　語学留学生のための日本語Ⅰ・Ⅱ』（凡人社）	2002	語学
『JAPANESE FOR EVERYONE（改訂版)』（学習研究社）	2008	Everyone
『日本語初級１・２ 大地 メインテキスト』（スリーエーネットワーク）	2008 ～ 2009	大地
『日本語初級１・２ 大地 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）	2009 ～ 2010	
『J.BRIDGE FOR BEGINNERS Vol. 1・2（第２版)』（凡人社）	2009 ～ 2010	JBB
『初級日本語上・下（新装改訂版)』（凡人社）	2010	初級日
『初級日本語 げんきⅠ・Ⅱ（第２版)』（凡人社）	2011	げんき
『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（第３版)』（講談社USA）	2011 ～ 2012	JBP

『みんなの日本語 初級 Ⅰ・Ⅱ 本冊（第2版)』(スリーエーネットワーク)	2012 ～ 2013	みん日初
『みんなの日本語 初級 Ⅰ・Ⅱ 翻訳・文法解説書（第２版)』(スリーエーネットワーク)	2012 ～ 2013	
『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』(凡人社)	2013	文化初

中級以降の教科書については、凡人社によって発行された『日本語教材リスト(2019 ～ 2020)』を参照し[8]、その中で「総合教科書」として分類されている教科書を調査資料として選定した。ただし、技術研修生、特定の機関に所属する学生など、特定の学習者層が対象となっている教科書は考察の対象外とした。また、初級からシリーズで刊行されている教科書のうち、『見て・きいて・わかる 会話式日本語文法 中級編・上級編・応用編』(博進堂)、『できる日本語 中級』(アルク)、『テーマで学ぶ中級日本語』(くろしお出版)、『まるごと 日本のことばと文化 中級１・２』(三修社)、『学ぼう！にほんご 中級・中上級・上級』(専門教育出版）の５種についても、今回は調査対象からは省いている。シリーズで刊行されている教科書では、語彙や文型の扱いについて統一した方針を持っており、それが副詞の扱い方についても影響している可能性があるからである。そのため、シリーズになっている教科書については、初級から調査ができているもののみを対象とした[9]。また、絶版状態などで入手が不可能だったものについては、調査対象から除外している。その結果、調査対象となった教科書は、中級教科書が14種、上級教科書が３種であった。本文中で言及する際の略語と合わせて表２、表３に示す。なお、教科書のレベルは、各々の教科書の前書きに書いてあるターゲットとなる日本語学習者層に関する記述を参考に判定した。

表２．調査資料：中級教科書（14種）[10]

教科書	刊行年	略語
『総合日本語中級前期』(凡人社)	1989	総合
『総合日本語中級』(凡人社)	1987	
『わかって使える日本語』(スリーエーネットワーク)	2004	わかって
『中級の日本語（改訂版)』(ジャパンタイムズ出版)	2008	IAIJ

『みんなの日本語 中級Ⅰ・Ⅱ 本冊』(スリーエーネットワーク)	2008 ～ 2012	みん日中
『みんなの日本語 中級Ⅰ・Ⅱ 翻訳・文法解説書』(スリーエーネットワーク)	2009 ～ 2012	
『上級へのとびら』(くろしお出版)	2009	とびら
『改訂版 トピックによる日本語総合演習 中級前期』(スリーエーネットワーク)	2009	トピック中
『新訂版 トピックによる日本語総合演習 中級後期』(スリーエーネットワーク)	2019	
『中級へ行こう 日本語の文型と表現55(第２版)』(スリーエーネットワーク)	2016	表現
『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期(第２版)』(スリーエーネットワーク)	2019	
『中級を学ぼう　日本語の文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク)	2009	
『J.BRIDGE(新装第２版)』(凡人社)	2010	JBI
『生きた教材で学ぶ新・中級から上級への日本語』(ジャパンタイムズ出版)	2012	生教材
『文化中級日本語Ⅰ (第二版)』(凡人社)	2004	文化中
『文化中級日本語Ⅱ (第二版)』(凡人社)	2014	
『テーマ別　中級から学ぶ日本語(三訂版)』(研究社)	2014	テーマ中
『中級日本語 上・下 (新装改訂版)』(凡人社)	2015	中級日
『日本語中級 J301 日本語中級 (改訂版)』(スリーエーネットワーク)	2016	J3050
『日本語中級 J501 中級から上級へ (改訂版)』(スリーエーネットワーク)	2001	
『中級日本語カルテットⅠ』(ジャパンタイムズ出版)	2019	カル
『中級日本語カルテットⅡ』(ジャパンタイムズ出版)	2020	

表３．調査資料：上級教科書（３種）

教科書	刊行年	略語
『上級日本語』(凡人社)	1998	上級日
『改訂版 トピックによる日本語総合演習 上級』(スリーエーネットワーク)	2010	トピック上
『テーマ別 上級で学ぶ日本語』(研究社)	2016	テーマ上

副詞の認定基準については、索引において一つの語彙として提示され、本文中で、動詞、形容詞（い形容詞／な形容詞）、副詞を修飾しているものはすべて副詞として扱った。ただし、次に挙げるものは、考察対象から外している。

①時間名詞として捉えることもできるもの（例：「毎日」「今日」「来年」）
②二語以上のくみあわせ（例：「いっしょうにいちど」「もうちょっと」）[11]

「くわしく」「きれいに」のような、いわゆる形容詞の連用形とも捉えることのできるものについては、索引において一つの語彙として提示はされていなくても、本文中において副詞として機能していると判断できるものについては、副詞として扱った[12]。形容詞の連用形を副詞として認めるかどうかは、学術的な立場によっても異なり、日本語教科書においても扱いが異なっている。索引において一つの語彙として提示されていることもあれば、索引には提示されず、形容詞の連用形の作り方を説明する項目の中で扱われていることもある。(1) がその例である。【文化初】の索引の中では、「薄い」「上手」「早い」「遅い」という形容詞のみが提示されており、「薄く」、「上手に」、「早く」、「遅く」は提示されていない。（教科書から引用した例については、例の末尾に、教科書の略語を【】を付して示し、それに続けて当該の例が提示されていたセクション、ページを示す。また、読みやすさの便宜上、異なるフォントで示されている個所についてはゴシック体やイタリック体を用いていることがある。また、引用部についている振り仮名や下線は取った形で示す。以下同様である。）

（1）2　たまねぎを薄く切ります。
　　自由に使ってください。

い形容詞　＋　動詞　　薄い　→　薄く切ります。
な形容詞　＋　動詞　　上手　→　上手に歌います。

1）私は毎朝早く起きます。
2）ゆうべ、遅く帰りました。（後略）

【文化初】L12・「文型」、p. 140

また、本研究でいう「取り立てて指導される副詞」とは、２節で述べたように、基本的には、Aに示すような、学習項目（または、その一部）となっている副詞を指す。それに加え、学習項目として提示されているわけではないが、他の学習項目を説明する中で示されている場合についても、「取り立てて指導される副詞」として扱う。具体的には、Bに示すように、当該の学習項目を使用する際に頻繁に、または典型的に用いられる副詞として提示されている場合である。本研究では、AもBも、「取り立てて指導される副詞」として扱うが、扱い方がまったく同じであるとは言えないため、結果を示す際には、AとBを区別して提示し、このような扱い方の違いの観点も取り入れた考察を行う。

A. 学習項目（または、その一部）となっている副詞

例1）5. なかなか

When なかなか is followed by a negative expression, it means ‘not easily’ or ‘not as expected’.

⑪　日本では　なかなか　馬を　見る　ことが　できません。

You don’t see many horses in Japan.　（後略）

【みん日初】（文法解説書）L18・「Ⅳ. Grammar Notes」、p. 117

例2）❹まるで～よう ｛に/な/だ｝

本文	・まるで関西人のように話すらしい。【読: *ll.* 15-16】
説明	This structure is used to introduce a simile, i.e., to describe a thing, person, action, etc. by comparing it with a similar thing, person, action, etc. まるで is an emphatic marker.
英訳	as if ～（were/-ed）; just like（後略）

【とびら】L10・「文法ノート」、pp. 236-237

B. 他の学習項目を説明する中で示されている副詞

例）1. まるで歌を歌うかのようにさえずる

意味：＝本当はそうではないが、～みたいだ。

「まるで」とともに、よく使われる。（後略）

【表現】（中級中期）L10・「学習項目」、p. 199

以下、教科書のレベル別に、取り立てて指導される副詞の種類と、それらに見られる特徴について述べていく。

4．初級教科書において取り立てて指導される副詞

初級教科書において導入されている副詞がすべて取り立てて指導されるわけではない。まず、取り立てて指導される副詞にはどのようなものがあるのかについて述べる。次の表4は、朴（2019：25）において、「初級教科書において導入されている副詞」として提示されていたものである。初級教科書において語彙として提示されている副詞を、当該副詞を扱っている教科書の数、副詞のタイプ（陳述副詞、程度副詞、情態副詞）を軸に分類した表であるが[13]、ゴシック体で記したものが、今回の調査で「取り立てて指導される副詞」として抽出された副詞である。

表4．初級教科書において導入されている副詞（朴2019：25）

	陳述副詞	程度副詞	情態副詞
11種	**あまり（～ない）、ぜひ**	**すこし、ちょっと、とても**	**いっしょに、いつも、**すぐ、**はじめて、**ほんとうに、また、**もう、**ゆっくり、**よく**（分かる）
10種	**ぜんぜん（～ない）、なかなか（～ない）**	**たくさん**	**いちばん、まだ、**まっすぐ、**よく（行く）**
9種	**たぶん、もし**	**ずいぶん**	あとで、いっしょうけんめい、そろそろ、**ときどき、はやく**
8種	**じつは、そんなに（～ない）、**たとえば、**ちょうど、どうぞ、**もちろん	**おおぜい、だいたい**	あるいて、さっき、**だんだん**
7種	**なにも、やっぱり**	（なし）	**きゅうに、**じぶんで、**できるだけ、**とくに、はっきり、**ひとりで、**まず、やっと
6種	かならず、**きっと、だれも、どうも**	**こんなに、**たいてい、ほとんど	いちど、**いつか、**いろいろ、**（朝から）ずっと、**そのまま、**なんども**
5種	**まるで（～ようだ）**	いっぱい、**かなり**	いつでも、だれでも、どこでも
4種	**いちども、**おかげで／おかげさまで、**せっかく、**ぜったいに、**たしか、**とにかく、なんとか	**あんなに、**しょうしょう、（～より）**ずっと、たいへん**	あいかわらず、さきに、さきほど、しばらく、じっさい、**たまに、**みんなで

3種	**いくら（～ても）**、けっきょく、たしかに、**たとえ**、できれば、どこも、まったく（～ない）、わざわざ	けっこう、**だいぶ**	**いまにも**、いよいよ、おさきに、**おそく**、おたがいに、きちんと、さいごに、**さっそく**、じゆうに、すっかり、ぜんぶで、ちゃんと、とちゅうで、とつぜん、**どんどん**、まことに、むりに
2種	あんまり（～ない）、ちっとも、できたら、どうか、**どんなに**、なんだか、ひとりも、べつに（～ない）	**すごく**、とっても	かわりに、たがいに、ちょくせつ、つい、のちほど、はやめに、ふつうに、べつべつに、ますます
1種	いがいに、いっけん（一軒）も、いったい、**おそらく**、かえって、けっして、さすがに、さっぱり（～ない）、すこしも、**それほど（～ない）**、たった、だれとも、どうやら、なるべく、なんか、なんとなく、なるべく、ひょっとして、まさか、**めったに**、もしかすると、やはり	いっそう、**ひじょうに**、ものすごく	いそいで、いちおう、いっしょう、うっかり、えんりょなく、おもいっきり、おもに、かんたんに、きほんてきに、きぶんてんかんに、ぐうぜん、ぐたいてきに、くたくたに、くわしく、こう、さらに、しかたなく、しっかり、じっと、しだいに、じどうてきに、じゅんばんに、じょうずに、じろじろ、しんけんに、**すぐに**、せっきょくてきに、そっと、たっぷり、たのしそうに、たびたび、ついでに、ついに、どうじに、とうとう、どうにか、ともに、はんたいに、ひそひそ、ひとりひとり、ぶじに、ふだん、ぺらぺら、ほんきで、まえむきに、もともと、れいせいに、わざと

語彙として導入はされるも、取り立てて指導される副詞は限定的であることが分かる。副詞のタイプごとに、取り立てて指導される副詞の割合を表すと、表5のようになる。

表５．初級教科書において取り立てて指導される副詞

副詞のタイプ	総数	取り立てて指導される副詞	
		数	割合
陳述副詞	64	25	39.1%
程度副詞	23	15	65.2%
情態副詞	119	23	19.3%

程度副詞の場合、取り立てて指導される割合が最も高く、導入される程度副詞全体の約６～７割が取り立てて指導されている。一方、情態副詞の場合、取り立てて指導されるのは２割ぐらいにしか過ぎない。陳述副詞の場合、取り立てて指導されるのは約４割で、程度副詞ほど取り立てて指導はされないものの、情態副詞よりは取り立てて指導されている。

次に、取り立てて指導される副詞に見られる特徴について述べる。調査対象となった全11種の教科書のうち、８種以上（約７割）の教科書において取り立てて指導されている副詞を対象に、その取り立てられ方の様相をAとBに分けて記すと次の表６のようになる。（Aを●、Bを○として記す。なお、各タイプに分類はできるが典型的とは言えないものには括弧を付して示す(14)。）

表６．初級教科書における副詞の取り立てられ方（A：●、B：○）

タイプ	種	副詞＼教科書	SFJ	初歩	語学	Everyone	大地	JBB	初級日	げんき	JBP	みん日初	文化初
陳述副詞	11	あまり（～ない）	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
		ぜひ										●	
	10	ぜんぜん（～ない）	(●)		●		●	●		●		●	●
		なかなか（～ない）				●						●	
	9	たぶん		(●)		●		(●)	(●)		○		
		もし		(●)	●	○			(●)		○	●	
	8	じつは	●								●		
		そんなに（～ない）							●				
		ちょうど		(●)								○	
		どうぞ					(●)						

程度副詞	11	すこし	(●)	●		●			●			●	
		ちょっと				●	(●)						
		とても	●		●	●			●	○		●	
	10	たくさん		●					●	●		●	
	9	ずいぶん	●								●		
	8	おおぜい		●									
		だいたい		●			●					●	
情態副詞	11	いっしょに	○	(●)	●		(●)	(●)	(●)			(●)	
		いつも	●		●	●							
		はじめて	●										
		もう	●	●		●		●	●	○	(○)	●	●
		よく（分かる）		(●)			●					●	
	10	いちばん	●	(●)	●	●	●		●	●	●	●	●
		まだ	●	●		●	○	●	●	●	(○)	●	●
		よく（行く）	●		●			●		●			●
	9	ときどき	●		●			●	●	●			
		はやく[15]		(●)						●			
	8	だんだん			●								

表６から、多くの教科書において導入されている副詞だからといって、必ずしも取り立てて指導されるわけではないことが分かる。例えば、陳述副詞の「ぜひ」は、11種の教科書すべてにおいて導入されているが、取り立てて指導がされているのは【みん日初】でのみである（例２）。程度副詞の「ちょっと」、情態副詞「はじめて」についても同様のことが言える。

(2) 6. ぜひ

ぜひ is used by speakers to intensify their expressions of hope.

⑫ ぜひ　北海道へ　行きたいです。　I really want to go to Hokkaido.

⑬ ぜひ　遊びに　来て　ください。　Do please come and visit me.

【みん日】（文法解説書）L18・「Ⅳ. Grammar Notes」、p. 117

一方、教科書間で共通して取り立てて指導される副詞も少なからず見られる。８種以上の教科書において取り立てて指導されている副詞を示すと、次の表７のようになる。「A（●）のみ」は、副詞そのものが学習項目として提示されている場合、「A（●）、またはB（○）」は、単独で学習項目として提示されているものだけでな

く、他の学習項目を説明する中で示されているものも含めた場合である。例えば、「A（●）のみ」では「８種」の中に挙げられていて、「A（●）、またはB（○）」では「10種」の中に挙げられている「まだ」は、単独の学習項目としては提示されていないが、他の学習項目を説明する中では取り立てて説明している教科書が２種あるということになる。

表７．８種以上の初級教科書において取り立てて指導されている副詞

A（●）のみ		A（●）、またはB（○）	
10種	あまり（～ない）、いちばん	10種	あまり（～ない）、いちばん、まだ
９種	（該当なし）	９種	もう
８種	まだ	８種	（該当なし）

学習項目（または、その一部）として取り立てて指導される副詞（A）で最も共通度の高い副詞は、「あまり（～ない）」と「いちばん」である。ただし、「あまり（～ない）」の場合、それだけを取り立てて指導をしているのは（例３）、【初歩】と【大地】のみで、それ以外の教科書では、他の副詞と合わせて指導がされている。ほとんどの教科書においては、形容詞述語を導入する際に、程度の甚だしさを表す「とても」や「すごく」と対で指導をするか（例４）、「だいたい、すこし、ぜんぜん」「たくさん」「よく、めったに」など、程度、量、頻度を表す副詞と合わせて指導がされている（例５）。「あまり」に限らず、程度、量、頻度を修飾する副詞は、対で、または、ひとつのカテゴリーにまとめて指導されることが多いと言うことができる。

(3) ①漢字は　あまり　難しくないです。　*Kanji is not so difficult.*

あまり is an adverb of degree used to modify a following adjective or verb in negative sentences.

漢字は　難しいです。　*Kanji is difficult.*

漢字は　あまり　難しくないです。　*Kanji is not so difficult.*

【大地】（文法説明と翻訳）L7・「Grammar Notes」、p. 62

(4) Ⅲ　［　　］は　どうですか。

とても　［Aい］です。　／［NA］です。

あまり　［Aく］ないです。　／［NA］じゃ　ありません。

例）　日本語の　勉強は　どうですか。

とても　おもしろいです。
あまり　おもしろくないです。

【語学】L4・「B 文型練習」、p.21

(5) Ⅶ. いつも, よく, ときどき, たまに, あまり, めったに: adverbs of frequency

If someone asks you “How often do you play tennis after class?”, you can choose your answer from the following:

You play everyday ……	いつも　する	*always*
every other day ……	よく　する	*often*
once a week ……	ときどき する	*sometimes*
once a month ……	たまに　する	*once in a while*
once a month ……	あまり　しない	*not very often*

（後略）

【SFJ】（Vol. 2：NOTES）L15・「Grammar Notes」、p. 193

対で指導されるという点においては、「もう」「まだ」についても同様の傾向が見られる。「もう」「まだ」は、それぞれ、完了、未完了を表す述語とともに指導される。【みん日初】を除いては[16]、例（6）のように、対を成す形で指導されていた。

(6)「もう」“already, yet”,「まだ」“not yet”

もう + Affirmative “already, yet”
まだ + Negative “not yet”

（中略）

2. A: ひるごはんは、もう食べましたか。（polite）Did you already eat lunch?
ひるごはんは、もう食べた？　（colloquial）
B: いいえ、まだ食べていません。　（polite）No, I haven’t eaten yet.
ううん、まだ食べてない。　（colloquial）
いいえ、まだです。　No, not yet.

【Everyone】L10・「Grammar Note Ⅱ」、p.138

また、初級教科書で共通して取り立てて指導される副詞は、学習項目となっている文型について理解を助けるための手段となっていることが多い[17]。先に述べた、程度、量、頻度を表す副詞は、形容詞述語や動詞述語を導入する際に指導され、「も

う」「まだ」は、完了、未完了を表す述語を導入する際に指導される傾向にある。特に、表６、７からも分かるように、「もう」の場合、Aの扱いでは７種だったのが、Bのような扱いまで含めると、９種の教科書で取り立てて指導される副詞となり、単独の学習項目にはなっていなくても、他の学習項目の中では取り立てて提示されることのある副詞であることが分かる。11種のうち10種の教科書において取り立てて指導されている「いちばん」についても同様のことが言え、「いちばん」は、最上級を表す文型を導入する際に指導される傾向にある（例：日本料理でてんぷらがいちばん好きです)。表６に示した副詞のうち、「じつは」「はじめて」「はやく」を除いては、新しい文型と一緒に提示されているものであった。例文や練習問題でも繰り返し出現することが多く、学習項目の理解を助けるための手段となっていることが考えらえる。大関（1993)、朴（2019）では、初級教科書で導入される副詞のうち、陳述副詞は、特定の述語形式と呼応するものが共通して取り上げられる傾向にあると述べられていたが、取り立てて指導される副詞に注目すると、初級教科書では、副詞のタイプに関わらず、特定の文型とともに共起する副詞が取り立てて指導される傾向にあることが分かる。

５．中級教科書において取り立てて指導される副詞

中級教科書でも、初級教科書と同様に、教科書間で共通して取り立てて指導される副詞は数少ない。表８に、中級教科書において取り立てて指導されている副詞を示す。多くても、14種のうち８種の教科書で取り上げられているのに過ぎず、共通して取り上げられていたとしても多くが4種以下の教科書に留まっている。

表８．中級教科書において取り立てて指導されている副詞

A（●）のみ		A（●）、またはB（○）	
８種	かえって	８種	かえって
７種	（該当なし）	７種	（該当なし）
６種	（該当なし）	６種	じつは
５種	じつは、たしかに	５種	せっかく、たしかに
４種	いかに、けっして、せっかく、まるで（～ようだ)、もし、たとえ	４種	いかに、かならずしも、けっして、たしか、たとえ、できれば、とても（～ない)、つい、どうも、どんなに（～ても)、なかなか（～ない)、まるで（～ようだ)、むしろ、もし

3種	いったい、おそらく、かならずしも、きっと、さすが／さすがに、つい、できたら、たしか、とても（～ない）、どうも、どうしても、どんなに（～ても）、なかなか（～ない）、むしろ、わざわざ	3種	いったい、おそらく、きっと、さすが／さすがに、できたら、どうしても、どうやら、もっとも（～が）、わざわざ
2種	あまりに／あまりにも（～ので）、いかにも、いちおう、かりに、すくなくとも、ただ（～だけ）、たぶん、てっきり、できれば、どうやら、ほとんど、まったく（～ない）、もしかすると、もっとも（～が）、もともと、やっぱり	2種	あまり（～と）、あまりに／あまりにも（～ので）、いかにも、いちおう、いまだに、かりに、けっこう、すくなくとも、ただ（～だけ）、たとえば、たぶん、てっきり、できれば、とにかく、どうりで、なんとか、ほとんど、まったく（～ない）、もしかすると、もっとも（≒いちばん）、もともと、やっぱり

中級教科書の中で最も共通して取り立てて指導される副詞は、「かえって」であり、いずれも、単独の学習項目として取り上げられている。ただし、【文化中】以外は、例（7）のように、読解文から抜粋されたものであった。

（7）14>>> かえって＝ ‘on the contrary’

［読み物＞1.55>>>それがかえって日本語を習う上ではよかったようだ］

It indicates that the result (or consequence) is contrary to what you expected.

a）白いセーターを洗濯したら、かえってきたなくなった。

(I washed a white sweater, and now it looks dirtier that before.)（後略）

【IAIJ】L13・「文法ノート」、p.250

「かえって」の次に、「じつは」「たしかに」「せっかく」が続くが、副詞の大半は、多くても、2種～4種の教科書で取り立てて指導されるのに留まっている。しかし、取り立てて指導される副詞に注目すると、陳述副詞に集中しているという特徴が見られる。表9は、Bまでを含めた、すなわち、「取り立てて指導される副詞」全般（表8の右側（A（●）、またはB（○））に示した副詞）について、副詞のタイプ別に分類したものである。

表９．中級教科書において取り立てて指導される副詞：副詞のタイプ別

	陳述副詞	程度副詞	情態副詞
８種	かえって	（該当なし）	（該当なし）
７種	（該当なし）	（該当なし）	（該当なし）
６種	じつは	（該当なし）	（該当なし）
５種	せっかく、たしかに	（該当なし）	（該当なし）
４種	いかに、かならずしも、けっして、たしか、たとえ、できれば、とても（～ない）、つい、どうも、どんなに（～ても）、なかなか（～ない）、まるで（～ようだ）、むしろ、もし	（該当なし）	（該当なし）
３種	いったい、おそらく、きっと、さすが／さすがに、できたら、どうしても、どうやら、もっとも（～が）、わざわざ	（該当なし）	（該当なし）
２種	あまり（～と）、あまりに／あまりにも（～ので）、いかにも、いちおう、かりに、すくなくとも、ただ（～だけ）、たとえば、たぶん、できれば、とにかく、どうりで、なんとか、まったく（～ない）、もしかすると、やっぱり	けっこう、ほとんど、もっとも（≒いちばん）	いまだに、てっきり、もともと

表９からも分かるように、２種以上の教科書で取り立てて指導される副詞の９割近く（全49個のうち43個、87.7％）が陳述副詞として扱えるものであった。初級教科書の場合、新しい文型に付随した形で指導される傾向にあったが、中級教科書になると、次の例（8）、（9）に示すように、副詞そのものに焦点が当てられている場合が圧倒的に多くなる。例（8）の「たしかに」や、例（9）の「つい」が共起する

述語の文法形式は既に初級レベルで指導されていることから、これらでは、「たしかに」、「つい」そのものが学習項目となっていると言える。新しい文型とともに示され、その文型の理解を助けるために指導されていると思われた副詞は、今回の調査では「まるで（～ようだ）」のみであった。

(8) 7．たしかに、～。（しかし／ただ／でも）（conjunction）
certainly ～（but, however）
Indicates acceptance of the content coming after たしかに, though not all of it. After that a negative view or differing opinion is expressed.
a. たしかに、その“一瞬”のあいだに、地球の科学は多くの成果をあげてきましたし、防災上の貢献も果たしてきました。ただその科学が、（後略）
【J3050】（J301）L7・「Grammar Notes」、p. 98

(9) 4．ついV$_{テ}$しまう　してはいけないと思っていることを無意識にしてしまう。後悔の意味。（中略）
①子どもが欲しがるものを親がつい買ってしまう。（後略）
【表現】（中級へ行こう）L3・「学習項目」、p. 28

以上から、中級教科書では、教科書間で共通して取り立てて指導される副詞は少ないものの、副詞そのものの理解が必要な陳述副詞が取り立てて指導される傾向にあることが分かる。

6．上級教科書において取り立てて指導される副詞

上級教科書になると、もはや、共通して取り立てて指導される副詞はほぼないに等しい。今回の調査で、複数の教科書において取り立てて指導されていた副詞は、【トピック上】と【上級日】における「もとより」を除いては、一つも見られなかった。上級教科書において取り立てて指導されていた副詞は以下のとおりである[18]。

かならずしも、こころおきなく、せっかく、そろそろ、たとえ、なにしろ、なんと、はたして、ひょっとして、まして、もとより、やむなく

上に挙げた12個の副詞のうち、「こころおきなく」「ひょっとして」「もとより」「や

むなく」以外は、今回調査した初級、中級の教科書でも取り上げられていた。上級になってはじめて取り立てて指導される副詞は少ないということが分かる。

7．おわりに

本研究では、初級から上級の総合教科書を対象に、その中で特に取り立てて指導される副詞にはどのようなものがあるのか、また、それらにはどのような特徴があるのかについて明らかにした。

初級教科書では、新しい文型に付随した形で、関連する副詞を対で（例:「とても／あまり」「もう／まだ」）、または一つのカテゴリーにまとめて（例：程度・量・頻度に関わる副詞）指導をする傾向にあった。中級教科書になると、取り立てて指導される副詞は陳述副詞に集中し、初級教科書とは異なり、ほとんどが「たしかに」「つい」のような、副詞そのものの理解に焦点が当てられたものであるのが特徴的であった。上級教科書になると、共通して取り立てて指導される副詞はほぼなくなり、取り立てて指導されていたとしても、その多くは、初級や中級の教科書において導入されることもある副詞であった。

日本語教科書において取り立てて指導される副詞に注目すると、日本語教育における副詞の指導と関連して、次のような傾向が見て取れる。まず、初級では、文型の学習が主となっており、副詞は、その理解を助けるための副次的なものとして指導される傾向にある。そして、中級になると、陳述副詞が取り立てて指導されることが多くなり、多くが、文型の理解を助けるためのものというより、副詞そのものが表す意味の理解に焦点が当てられたものとなる。程度副詞や、特定の文法形式と共起する陳述副詞は、日本語学習者にとって、その意味や使い方の理解が比較的容易であり、初級で導入しても負担が少ない。しかし、陳述副詞の中には、特定の文法形式と共起せず、その意味や使用の理解が難しいものも存在する。そのような副詞が取り立てて指導されるようになるのは、基本文型がある程度定着したあとの中級になってからである。とはいえ、副詞の指導は、中級でほぼ終わる傾向にあり、上級で取り立てて指導されることはほぼない[(19)]。

従来、特定の文法形式と共起する副詞を除いては取り立てて指導されることが少ないということがしばしば述べられてきたが、教科書をレベル別に分け、また取り立てて指導される副詞の内訳を詳細に見てみると、それ以上の違いや特徴があることが分かった。しかし、語彙レベルでの導入に留まっている副詞が多いという事実は変わらない。また、主に中級以降で導入される陳述副詞の多くは話し手の心情や

主観を表す副詞であるように思われる。この種の副詞は、日本語学習者にとって産出が難しいという指摘がある（朴2020）。他の学習項目と同等に取り立てて指導をしても、なかなか産出にまでつながらない副詞があるとすれば、現行の副詞の指導法は何らかの工夫を要するということではないだろうか。副詞は、より豊かな表現を可能とするだけでなく、コミュニケーションを円滑に行う上でも重要な働きをする。今後は、副詞の使用そのものや副詞の適切な使用を促す、効果的な指導法についても考えていきたい。

注

(1) なぜ「13冊以上」が基準となったのかについては特に説明されていないが、教科書間で共通して見られる副詞の特徴を見出すために便宜的に設定した数であると思われる。16冊のうちの13冊は、調査資料の８割程度に当たる。

(2)「共通度」という用語について、特に定義はされていないが、考察の内容に基づいて考えると、教科書間で共通して取り上げられる程度のことを指していると思われる。例えば、「共通度が高い」というのは、多くの教科書において共通して取り上げられているということを指す。後に述べる朴（2019）でも、同様の意味で「共通度」という用語が使われている。松本（2020）では、同じようなことを指して、「共通性」という用語が用いられているが、まとめを行う際には、説明の便宜上、「共通度」という用語を用いることとする。

(3) 中・上級教科書における副詞については、初級教科書で行ったような、副詞の三分類を軸とした考察は行われていない。

(4) 大関（1993）で調査対象となっている初級教科書の刊行年は、1963年から1992年の間で、朴（2019）で調査対象となっている初級教科書の刊行年は、1994年から2010年の間であり、調査資料そのものにも約30年の隔たりがある。１冊だけ重複している教科書があるが（『日本語初歩』凡人社）、朴（2019）では、改訂版が採用されている（大関1993では、1989年刊行の初版を、朴2019では、1997年刊行の改訂版を採用している）。

(5) 松本（2020）では、この他にも、中級教科書において使われている副詞が中級レベルにふさわしいレベルのものであるかについても考察を行っている。本研究の内容とは直接には関連しないため、詳細については割愛する。なお、松本（2020）では、大関（1993）や朴（2019）のような、副詞の三分類を軸とした考察は行われていない。

(6) 例えば、同じ学習項目が異なるレベルで扱われている場合や、総合教科書であっても、「読む」「書く」の２技能の練習が中心となっている場合など。

(7) ただし、【SFJ】については、『Drills』を、【大地】については、『文型説明と翻訳』を、【みん日初】については、『翻訳・文法解説書』を追加した。日本語教科書における副詞について、朴（2019）では、導入の有無に注目し、本冊の末尾などに掲載されている索引を用いた調査が主となっていたが、本研究では、本文、解説、練習問題などにおける扱いも主要な考察対象となるためである。

(8) 凡人社が発行する『日本語教材リスト』は、国内外あわせて200社以上が発行する約4,000点の日本語教材がリスト化されている冊子である。本研究では、2021年12月現在、最新の教材リストである48号（2019 ～ 2020）を参照した。なお、当リストに掲載されている書籍情報は、2019年９月30日現在のものである。

(9) シリーズになっている教科書の語彙や文型をめぐる方針にも注目した考察は、今後の課題とする。

(10)【文化中】は、Ⅰ、Ⅱのいずれも、改訂版を調査対象とした。『日本語教材リスト（2019 ～ 2020）』には、初版の情報が掲載されているが、本リストが発行された時点で改訂版もすでに刊行されていたからである。また、【カル】のⅡは、刊行年が2020年であり、本リストには掲載されていなかったが、調査時点では入手が可能であったため、Ⅱも考察対象に入れることとした。

(11)「いっしょうにいちど」「もうちょっと」のようなものは、「一生に数回」「人生で一度」、「もう少し」「あとちょっと」のように、それぞれを構成している語が他の語とも組み合わせが可能であることから、二語以上の組み合わせとして見なした。考察の対象に入れている「しかたなく」「ひとりひとり」のようなものは、構成する語が他の語とは組み合わせが不可能であると見なし、一語の副詞として扱っている。

(12) 本研究では、「動詞のしめす動きや状態の質・ようす、量・程度、および形容詞のしめす性質や状態の程度をあらわして、文のなかで修飾語（少数は状況語）としてはたらく品詞」（鈴木1972：462）を副詞としている（※筆者注：「状況語」とは、「主語と述語（あるいは、それに対象語や修飾語のくわわったもの）のあらわすできごと、ことがらがなりたつ場所、とき、原因、目的をあらわす文の部分」（鈴木1972：99 ～ 100）を示す。例：図書館で勉強した。）。したがって、形容詞の連用形については、「残念に思う」の「残念に」のような、内容を示すものや、「暗くなる」の「暗く」のような、合成述語の一部になっているものは、

上記の定義からは外れるものと見なし、副詞として扱っていない。

(13) 本研究で陳述副詞として分類した副詞の中には、教科書の中では、程度を表す副詞（adverbs of degree）として説明がされているものがある（例:あまり（～ない））。本研究では、教科書における説明とは関係なく、いわゆる副詞の三分類の枠組みから、特定の述語（または、叙法）と呼応する副詞は、陳述副詞として分類した。

(14) 例として、（○）として記した「まだ」の例を挙げておく。

Ⅳ“Not Yet”

The -te form followed by いません sometimes indicates that something has not yet occurred or has not yet been achieved. For example:

Q：もう　レポートを　書きましたか。

A：はい、もう　書きました。

いいえ、まだ　書いていません。

いいえ。レポートは　書きません（でした）。　（後略）

【JBP】（Ⅱ）L6・「GRAMMAR & PATTERN PRACTICE」、p. 87

(15)「はやく」そのものが取り立てて指導されることは少ないが､副詞として働く、形容詞の連用形については、【初歩】、【JBB】以外のすべての教科書において取り上げられている。

(16)【みん日初】では､完了を表す述語と共起する「もう」は初級前半で指導をし、未完了を表す述語と共起する「まだ」は初級後半で指導をしている。初級前半でも「もう」の対として「まだ」が出現してはいるが、「いいえ、まだです」のように、述語として、かつ、固定された形でのみ使われている「まだ」であり、本研究では、副詞として機能しているものとは見なさなかった。

(17) 日本語教育では、副詞を含めた形（例：まるで～ようだ）で「文型」と称することもあるが、本研究では、基本的に、述語を軸とした文の構造という意味で用いる。

(18) 上級教科書では、「～はもとより」「～ならまだしも」、「～を余儀なくされる」のように、単独で副詞として機能することもある要素（「もとより」「まだしも」）を含んだ句、または、副詞として認めることもできそうなもの（「余儀なく」）が固定された表現として提示される場合が多く見られる。【トピック上】と【上級日】の２冊において扱われていた「もとより」も、【トピック上】では、「～はもとより」の形で提示されていた。

（19）小矢野（1984）では、日本語学習者のレベル別に、副詞を含む副用語を指導する際の留意点が述べられているが（初級レベルでは、副用語の意味・機能の説明があまり詳しくなりすぎないように配慮すること、中級以降では、理解できる語、使用できる語を増やし、その意味・用法を理解させることなど）、そこで述べられている点は、本研究で考察を行った日本語教科書における副詞の扱われ方の様相とも連動しており、興味深い。

引用文献

大関真理（1993）「日本語学習用教科書の副詞語彙」『言語文化と日本語教育』5、お茶の水女子大学日本言語文化学研究会、pp.23-34.

小寺里香（2001）「初級～中級学習者の発話に見られる副詞の使用について」『岐阜大学留学生センター紀要』Vol. 2000、岐阜大学、pp.76-89.

小矢野哲夫（1984）「副用語の指導上の問題点」『日本語教育』52、日本語教育学会、pp. 7-18.

鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』むぎ書房

朴秀娟（2019）「初級日本語教科書における副詞の導入実態について」『神戸大学留学生教育研究』3、神戸大学国際連携推進機構国際教育総合センター留学生教育部門、pp. 21-34.

朴秀娟（2020）「中級日本語学習者の口頭表現に見られる副詞の特徴―ストーリーテリングを中心に」『日本語／日本語教育研究』11、ココ出版、pp. 19-34.

松本秀輔（2020）「中級日本語教科書に取り上げられる副詞について」『同志社大学日本語・日本文化研究』17、同志社大学日本語・日本文化教育センター、pp. 39-60.

付記：本研究はJSPS科研費JP17K13484の助成を受けたものである。

Adverbs in Japanese Textbooks

PARK Sooyun

This study investigates what kinds of adverbs are currently focused on in integrated Japanese textbooks (hereafter, Japanese textbooks) and what common features these adverbs have. Although previous studies have already identified the common features among the adverbs which are introduced in Japanese textbooks, they have dealt with the adverbs all equally despite of the fact that there is a difference in the way each adverb is introduced in textbooks. This study especially sheds light on the adverbs which are introduced as important as other grammatical expressions and reveals the following features among the adverbs:

i. In elementary Japanese textbooks, adverbs are taught in a newly introduced sentence structure. The adverbs are used to help learners to understand the sentence structure. Moreover, it is taught with other related adverbs in a pair (e.g. *totemo/amari, mou/mada*) or in a group (e.g. the adverbs of degree, quantity and frequency).

ii. In intermediate Japanese textbooks, compared to elementary Japanese textbooks, the type of adverbs varies and the commonly introduced adverbs among the textbooks are a few. The adverbs which are commonly introduced among the textbooks are modal adverbs (e.g. *tashikani, tui*). Many of the modal adverbs do not have an explicit structure, and therefore, the textbooks focus on its meaning and usage of the adverbs themselves.

iii. When it comes to upper Japanese textbooks, it is hardly possible to find commonly introduced adverbs among the textbooks. Though the textbooks introduce adverbs, they are mostly the adverbs which have been already introduced in elementary or intermediate Japanese textbooks.

Throughout this investigation, it is revealed that there seems a tendency in the way of teaching adverbs in Japanese education. In elementary levels, sentence structures are more focused and adverbs are taught periphrastically. When learners proceed to intermediate levels, modal adverbs are taught

themselves. It is easy to understand the meaning and usage of adverbs of degree so it is highly likely to introduce them in elementary levels. On the contrary, as for modal adverbs, it is difficult to understand its meaning and usage so it is likely to introduce them after learners proceed to intermediate levels. However, when learners proceed to upper levels, fewer adverbs are newly introduced.